

令和元年度 第一回放射線治療部会 議事録 (案)

日時： 2019年06月26日 14:00-16:00

場所： 大阪国際がんセンター1階大講堂

参加者(順不同、敬称略)

足立加那、岸本昌正、吉田謙、武川英樹、井上正義、門前一、石田洋子、白井房枝、荻野亮、池田恢、北野崇夫、小倉昌和、中川真嘉、西尾牧子、手島昭樹、堤真一、田中正博、石垣孝、平野敏子、田中英一、谷正司、中村孝範、小山秀和、中村浩之、今西美智、鮫島雅範、涌田哲成、渡部悟、濱田淳也、奥田博志、志賀淑子、河村正、上田和光、北谷均、辰巳智章、橋本一誠、永田憲司、左近聡、則久佳毅、池上正樹、中野素宏、高橋肇、出口和洋、中村克治、古妻理之、大谷侑輝、谷畑博彦、多間田寿士、廣川恵子、板垣康、高木雄久、浦田亜紀子、山本鋭二郎、横田雅人、岩本愛佑美、石井佳江、田中寛人、西多俊幸、大槻健生、川守田龍、山田正宣、宮代勲、小野公二、宮崎正義、上田悦弘、大平新吾、五十野優、正岡祥

1. がん対策センターHP 放射線治療情報の改訂、その他 (大阪国際がんセンター 手島昭樹、正岡祥)

情報更新についてだが、今は現況報告を元に作成しているため掲載される情報は二年前のものとなる。基本的に現況報告に基づく方が良いが、最新の情報も必要である。

そのため現況報告はそのままで、放射線治療実績の方は年二回程度で最新情報に更新する方が良い。

ただし、現況報告と放射線治療実績の数値にズレが生じるので、その理由を明記する必要がある。

また、府の現況報告書は国の現況報告書に独自の項目を追加したものとなっている。す

でにある項目を補足・補填するような項目として、施設側が集計しやすいようにした。その他、放射線部門へのリンクは可能だが、リンク切れになっていないかを誰かが管理する必要がある。

診療報酬請求について、審査側と病院側との認識の違いがあったことがわかった。今後、このような情報も共有できるようにしたい。また、今回の件に関しては JASTRO 理事会を通して健保委員会に報告する予定だ。

2. 大阪医大における婦人科組織内治療の現状と将来 (大阪医科大学 吉田謙先生)

諸外国同様、侵襲的治療であることと費用のこともあり減少傾向にある。ただ、小線源

治療併用した方が、明らかに成績が良好である。

マイクロセレクトロン研究会でも見学等の話はしているが、あまり申し出がない。部会としては教育も絡めて、組織内照射の人材育成や教育の場の提供のためのネットワーク構築を行っていく。

3. 大阪国際がんセンターにおける診療放射線技師体制と新装置導入のご紹介（大阪国際がんセンター 宮崎正義）

施設規模により放射線治療の患者数は大きく異なり、放射線技師の数もそれに伴い異なってくる。技師の数が少なければ専門化もしづらくなる。

ただ、放射線治療専門技師に認定のためには放射線治療に5年従事する必要がある、小規模施設は勤務形態等を考えると難しいと思う。この問題について放射線治療専門技師認定機構と議論する必要があると思う。

4. 特別公演 BNCT 研究到達点と実診療の開始に向けて(大阪医科大学関西 BNCT 共同医療センター長・京都大学名誉教授 小野公二先生)

新しいサイクロトロンに合わせて住友重工が新しい治療計画装置を開発しており、機器とまとめて薬機法を通すことになると思う。筑波も独自で開発している。仕組みもシンプルで分かりやすいこともあり、そのような方向になると思う。

診療開始は来年の夏以降を予定している。

5. 全体討論

地震等の災害が発生した際、放射線治療再開を決定する指針が曖昧なところがある。次回以降、情報共有や議論等を行っていきたい。

文責 正岡 祥、手島 昭樹